

# 検体処理の流れ

検 体

肉眼的所見  
沈渣所見を記載

2700回転3分

2枚すり合わせ ⇒ パパニコロ染色

2枚ストリッヒ ⇒ ギムザ染色

サイトスピン法 ⇒ 1枚

合計5枚  
ダブルチェッククリーニング

# 検体の保存

検体の保存法 : 細胞保存液(サイトコレクト液)

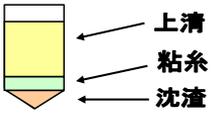
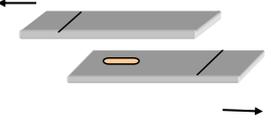
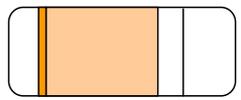
保存期間 : 陰性例 →結果処理終了まで

陽性例 →約1ヶ月

フィルター法(転写法)

による追加標本、免疫染色

# 検体処理マニュアル

検体名 <b>自然尿</b>	*1 必要量 <b>20~50ml</b>	処理方法 湿固定: 擦り合わせ塗抹法 乾燥固定: 引きガラス法
採取器具・容器 スピッツ・採尿カップ	保存法・保存日数 室温: 1~6時間 冷蔵: 24時間	保存液: 4°C 1~5日 その他:
標本作成枚数 湿固定: 4枚 乾燥固定: 2枚	参考図示 ①~⑤ ①, ②, ⑥~⑧	備考 沈渣前の肉眼的性状及び沈渣成分の性状を記入。
① 2700rpm 3分間遠心	② *3  上清 粘糸 沈渣 上清及び粘糸を捨て沈渣成分をスポイドで吸い取る。	③  スライドに横に線を引くように、沈渣成分を適量滴下する。
④ *4, 7  擦り合わせ法にて標本作成。	⑤ *5 直ちに湿潤固定	⑥  引きガラス法にてギムザ染色標本を作成。
⑦ *6  引き終わりに細胞を集める。	⑧ 直ちに冷風乾燥固定	⑨

## 注意事項

- \* 1: 畜尿や採取後室温で長時間(1日以上)放置した検体は、細胞変性が強く細胞観察が困難となる。
- \* 2: 臨床所見をもとに、さらに複数枚追加する。(悪性腫瘍等)
- \* 3: 上清、粘糸は出来るだけ取り除く。
- \* 4: 力を加えず検体がスライドに広がるとゆっくり左右に引く。(水分が多いと細胞は紙縊り状集塊になる。)
- \* 5: 乾燥させず、固定時間は30分以上。
- \* 6: スライドの端から3~5mm程度の所で止める。
- \* 7: 細胞剥離を防ぐ為、シランコーティングスライドを用いる。

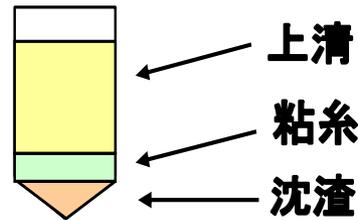
<p>検体名 <span style="color: red;">*1</span></p> <p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">自然尿</p>	<p>必要量</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">20~50ml</p>	<p>処理方法</p> <p>湿固定: 擦り合わせ塗抹法</p> <p>乾燥固定: 引きガラス法</p>								
<p>採取器具・容器</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">スピッツ・採尿カップ</p>	<p>保存法・保存日数</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%;">室温:</td> <td style="width: 33%; text-align: center;">1~6時間</td> <td style="width: 33%;">保存液:</td> <td style="text-align: center;">4°C 1~5日</td> </tr> <tr> <td>冷蔵:</td> <td style="text-align: center;">24時間</td> <td>その他:</td> <td></td> </tr> </table>		室温:	1~6時間	保存液:	4°C 1~5日	冷蔵:	24時間	その他:	
室温:	1~6時間	保存液:	4°C 1~5日							
冷蔵:	24時間	その他:								
<p>標本作成枚数</p> <p>湿固定: 4枚 <span style="color: red;">*2</span></p> <p>乾燥固定: 2枚</p> <p>参考図示</p> <p>①~⑤</p> <p>①, ②, ⑥~⑧</p>	<p>備考</p> <p>沈渣前の肉眼的性状及び沈渣成分の性状を記入。</p>									

①

2700rpm  
3分間遠心

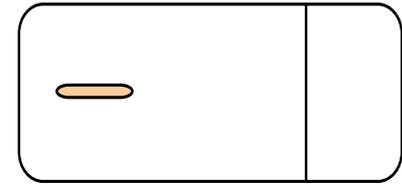
②

\*3



上清及び粘糸を捨て沈渣成分をスポイドで吸い取る。

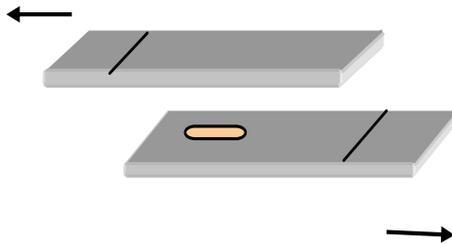
③



スライドに横に線を引くように、沈渣成分を適量滴下する。

④

\*4, 7



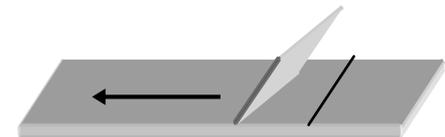
擦り合わせ法にて標本作成。

⑤

\*5

直ちに湿潤固定

⑥



引きガラス法にてギムザ染色標本作成。

⑦

\*6



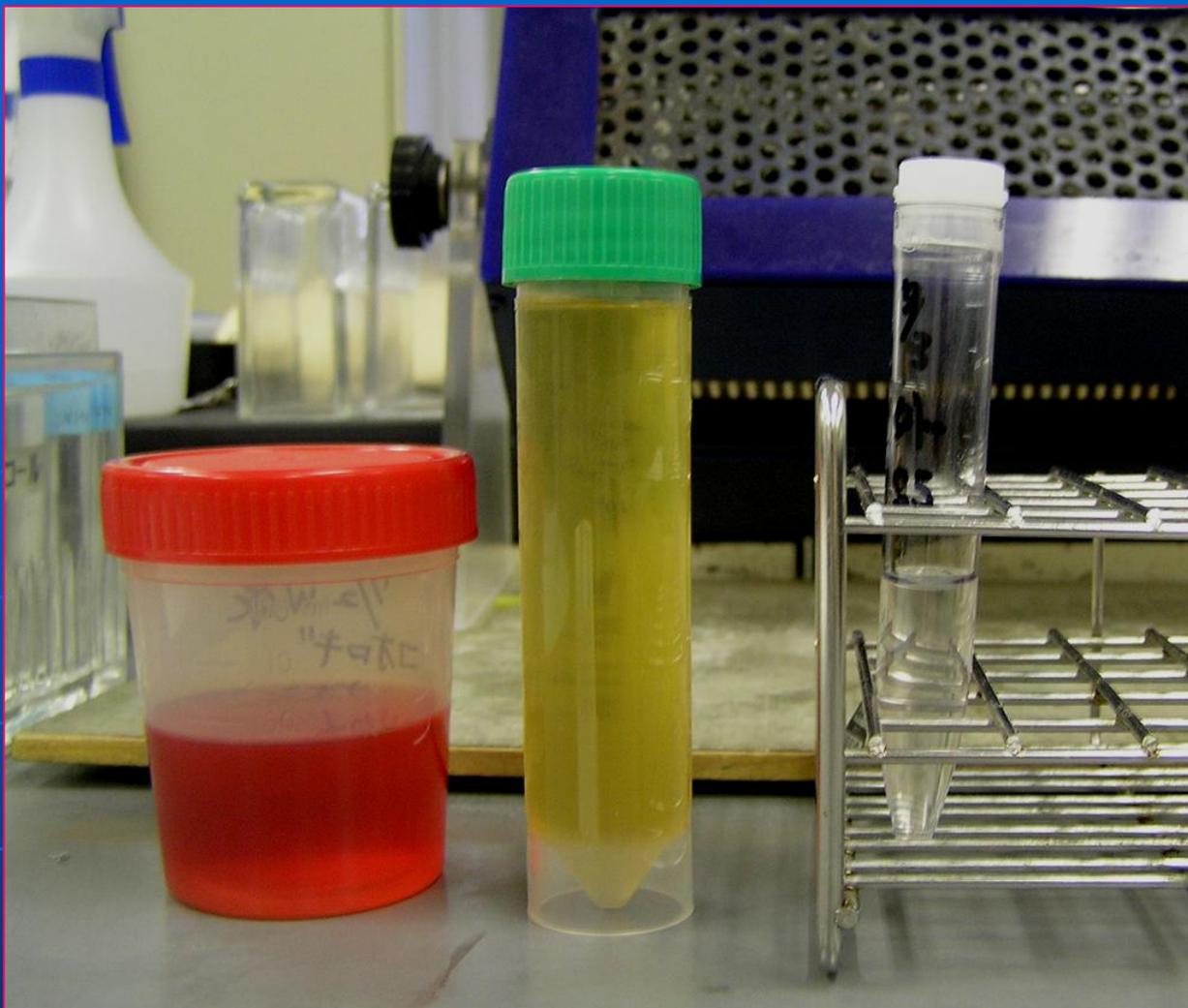
⑧

直ちに冷風乾燥固定

⑨

## 注意事項

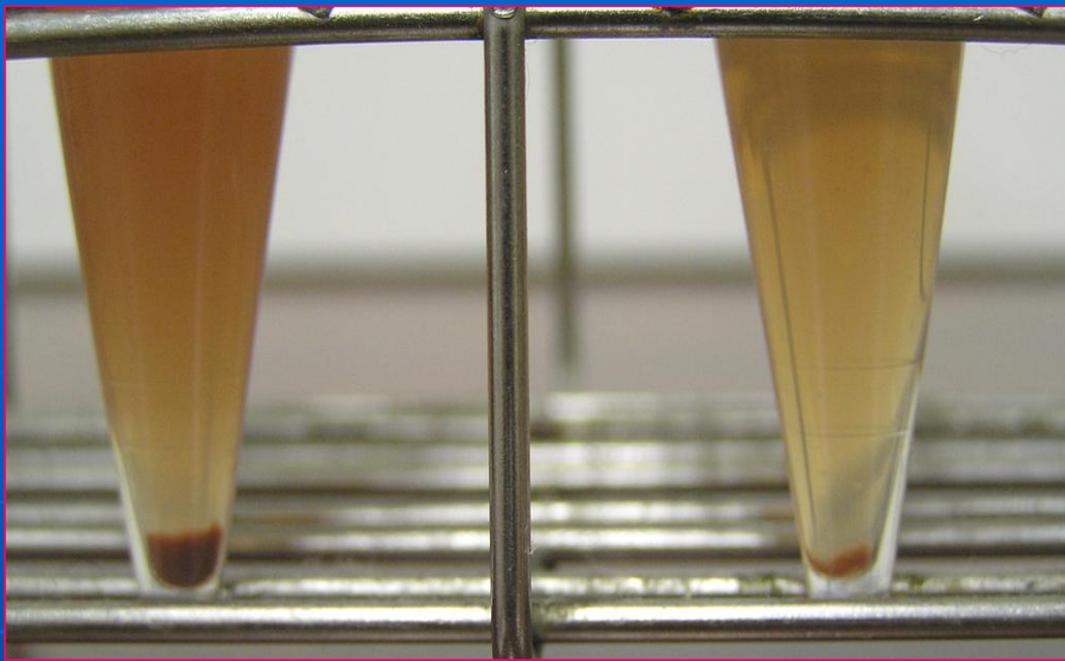
- \* 1: 畜尿や採取後室温で長時間(1日以上)放置した検体は、細胞変性が強く細胞観察が困難となる。
- \* 2: 臨床所見をもとに、さらに複数枚追加する。(悪性腫瘍等)
- \* 3: 上清、粘糸は出来るだけ取り除く。
- \* 4: 力を加えず検体がスライドに広がるとゆっくり左右に引く。(水分が多いと細胞は紙縴り状集塊になる。)
- \* 5: 乾燥させず、固定時間は30分以上。
- \* 6: スライドの端から3～5mm程度の所で止める。
- \* 7: 細胞剥離を防ぐ為、シランコーティングスライドを用いる。



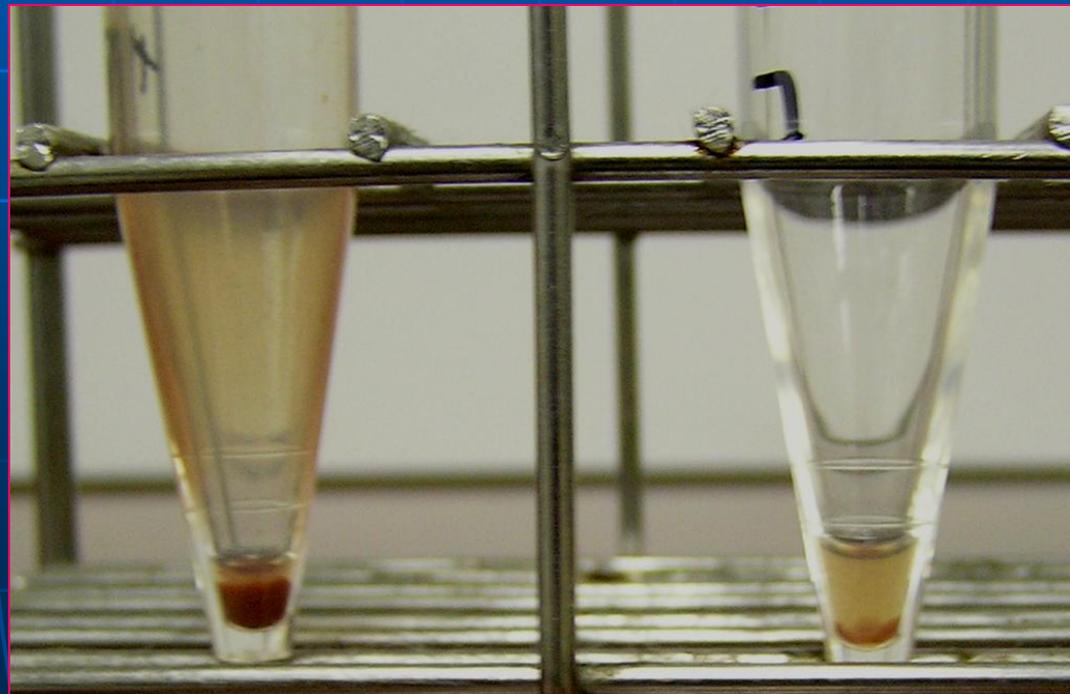
集配された検体

多種類の容器、検体量の不足……

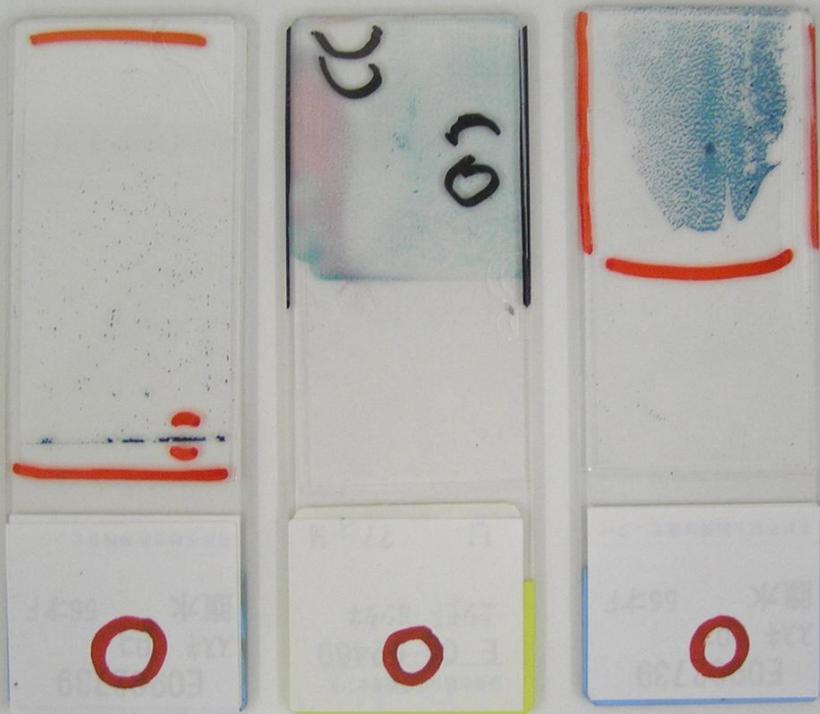
1回法及び2回法



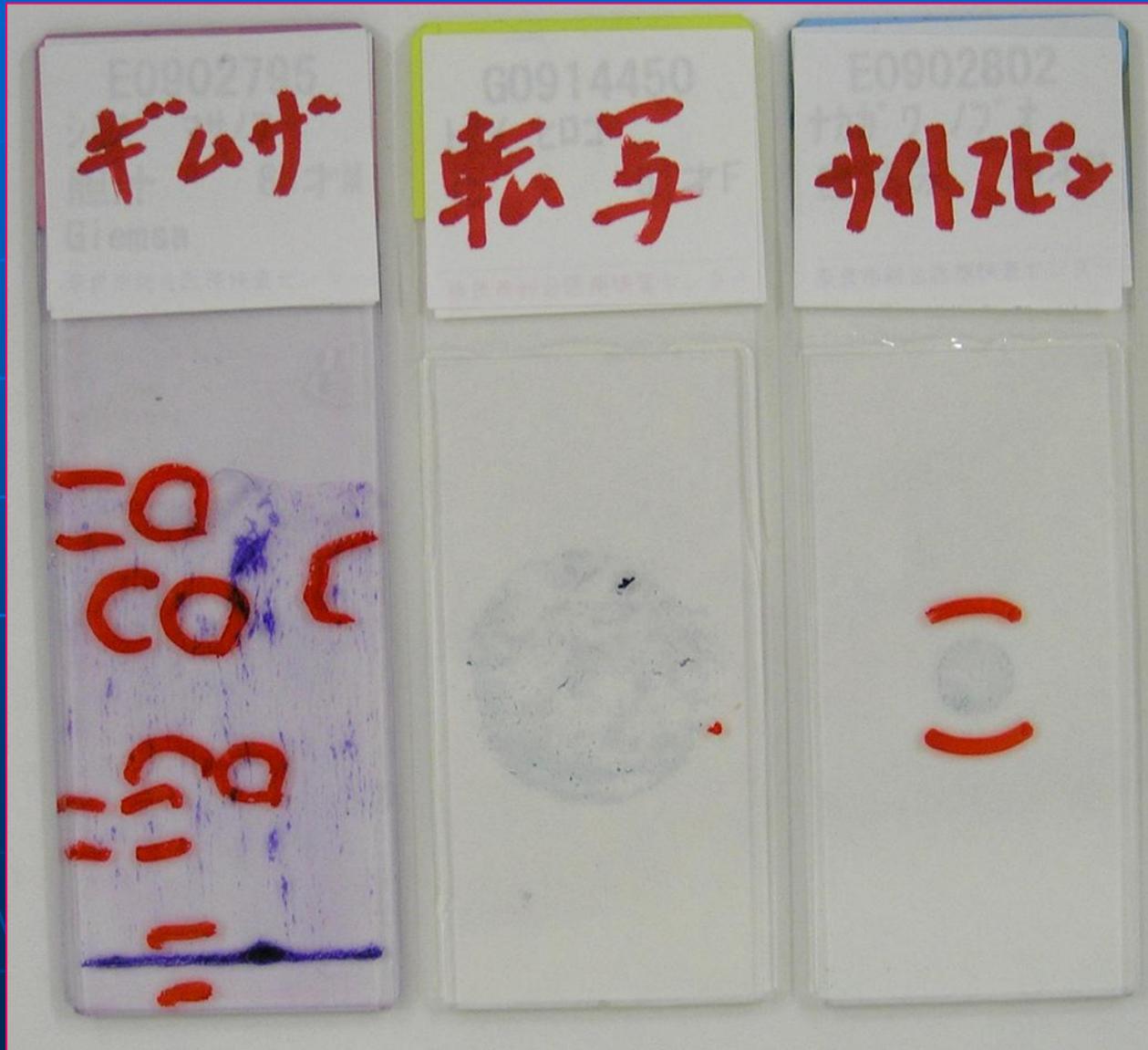
水分量の適否

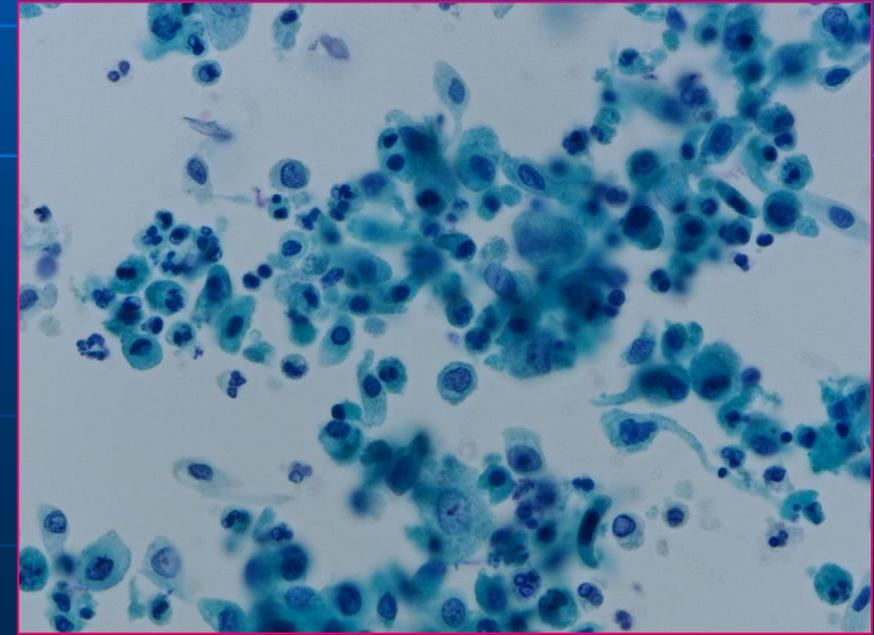
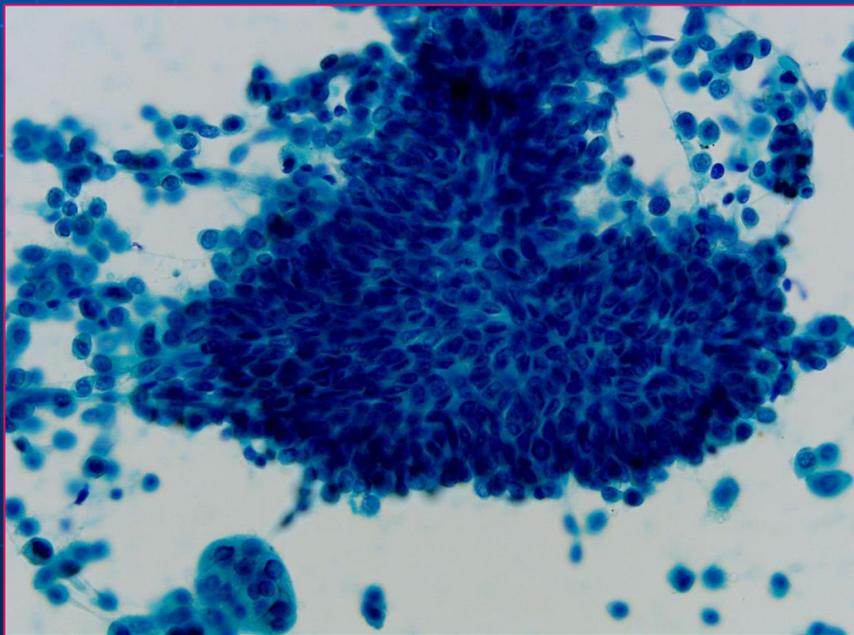
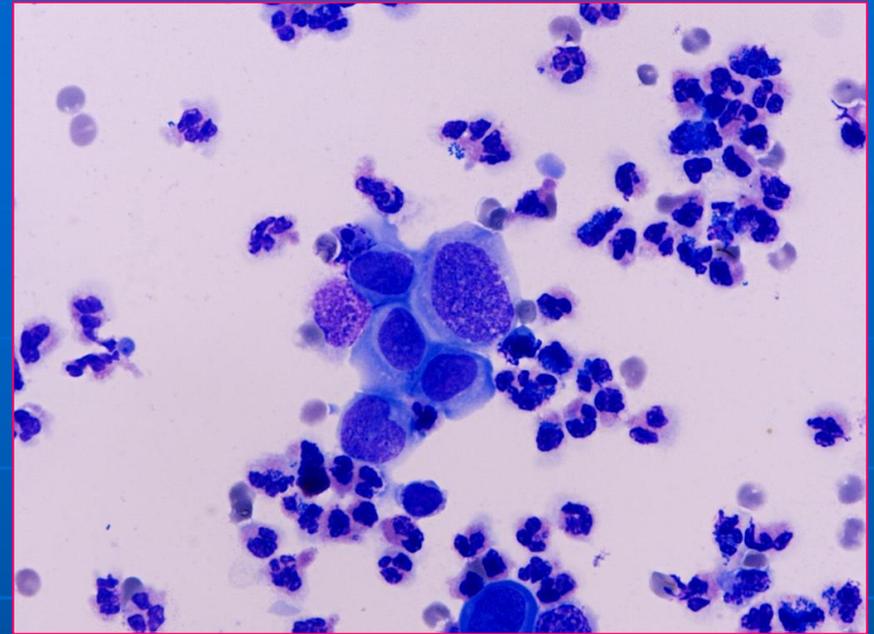


# 標本適否の 肉眼像



# 作製法による違い





## 直接法のメリット

- 手軽で簡便に作業できる。
- 経済的である。
- ギムザ標本が作成できる。
- 細胞形態の変化が少ない。
- 核クロマチンパターンが観察しやすい。
- 赤血球形態が観察できる。

## 直接法のメリット

- 特殊な機材を要しない。
- 経済的である。
- ギムザ標本が作成できる。
- 細胞形態の変化が少ない。
- 核クロマチンパターンが観察しやすい。
- 赤血球形態が観察できる。

## 直接法のデメリット

- 細胞剥離に注意が必要である。
- スクリーニング面積が広い。
- 標本作成にややコツがいる。

# ギムザ染色

## メリット

- 細胞剥離が少ない。
- 細胞起源が推定しやすい。
- 散在傾向にある細胞形態は特に観察しやすい。

## デメリット

- 尿PHによる若干の染色性への影響。
- ギムザ染色観察に若干のコツが必要。
- 細胞がやや大きく、核内所見も強調傾向である。

# 当センター過去3年間における 直接法「偽陰性例」について

泌尿器検体総数 8072例

直接法の偽陰性例

2例

膀胱洗浄液検体(蛋白・細胞成分少量)

標本再作製(フィルター法)

陽性と判定

# 結 語

- ◆それぞれ各方法には特徴があり 検体数及び人員等により最良と考えられる方法を選ぶことが寛容である。
- ◆液状検体処理として「シンレイヤー法」が注目されており 液状検体における標準標本作製法として期待される。